

## 令和5年度 母島部会におけるご意見への対応

## 1. 土付き苗の温浴

No.	主な意見	対応方針案
①	議論が停滞しているように感じるため、設備の常設化や他手法（殺虫剤の使用）等の検討、もしくは議論の加速が必要かと思う。現在の手法に拘らずに一度リセットして方策を考え直してみてもどうか。	ははの湯は、これまでの議論を重ねた結果導き出された取組であり、地域の理解を得ながら本取組を着実に進めていくことが重要。土付き苗購入者の利用拡大のための方策について、地域連絡会議において議論する。
②	温浴障害のリスク等、協力すると損をするのではないかというイメージが島民の間で広がることで、さらなる普及率の低下に繋がる恐れがある。	ご利用を検討されている方の懸念を少しでもなくせるように、令和6年度に全戸配布したリーフレットに、外来種対策効果が大きくかつ苗への影響の小さい処理条件（温度・時間）を設定している旨を記載した。
③	土付き苗への対策と並行して、種からの栽培や切り花の購入についてもインセンティブを与えるなど、普及していけると良いのではないか。	ははの湯の利用拡大に係る方策と併せて、地域連絡会議において議論する。

## 2. 母島外来種対策指針について

No.	主な事項	対応方針案
④	科学的な観点から見て、問題点や対策については十分に検討されている。今後は現場での実効性担保を中心に議論いただければと思う。 科学的に望ましい対策と現場での実現可能性のバランスが良い方法を検討いただきたい。	地域連絡会議において、令和6年度現時点での試行結果をご共有するとともに、実効性を担保するための方法について、地域の皆様からご意見をいただく。
⑤	荷物の集積所や船内等で一括の対策が実施できれば非常に効率的かと思う。	環境省では令和6年度に、小笠原関連港湾や母島島内の資材集積所におけるアリ類のモニタリング調査業務を実施した。
⑥	今後の運用の中で事業者の負担を軽減しつつ、重要な部分はきちんと対策が実施されるように調整いただきたい。	令和6年度の試行結果や地域連絡会議における議論を踏まえ、外来種対策指針の内容を改善する。

## 3. 次年度以降の母島部会について

No.	主な意見	対応方針
⑦	科学委員等の専門的な知識が必要となった際のヒアリング実施等の体制面については、今後整理いただきたい。	令和7年度以降、母島部会の継続課題については、地域連絡会議で議論を進める。科学委員会には、以下の事項を報告し、適宜助言を求める。 <科学委員会への報告事項> ・地域連絡会議での議論状況 ・ははの湯や外来種対策指針の運用結果 ・モニタリング結果 ・侵入時初期対応状況